ONCC　第 11 期　　～江戸時代へタイムスリップ

テーマ：**角屋もてなしの文化美術館、花街島原散策**

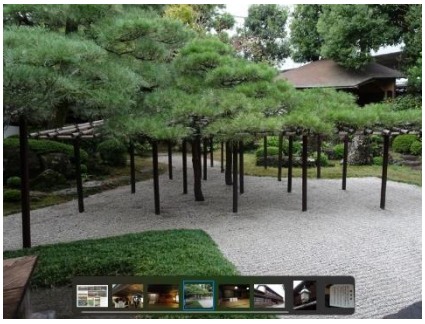
＜２０２３年 10 月 4 日（晴れ）10 時 30 分～角屋もてなしの文化美術館、花街島原散策＞
受講生　22 名+CA2 名（廣瀬＆岸本の両氏）計 24 名にてスタート　（担当 4 班）＞

京都・島原にある「角屋おもてなし文化美術館」を見学致しました。
「角屋」は島原開設当初から連綿と建物、家督を維持しつづけ江戸期の饗宴・もてなしの文化の場所である揚屋（あげや）建築の唯一の遺構として、昭和 27 年（1952）に国の重要文化財に指定されました。

揚屋とは、現在の料理屋・料亭にあたる大型宴会場で、大座敷に面した広庭に必ずお茶席を配し、寺院の庫裏（くり）と同規模の台所を備えることが特徴とされています。
座敷はそれぞれ趣向が異なり、「松の間」から眺める龍が天に昇っていくような姿の「臥竜松の庭」
「網代の間」など他にも多くの所蔵品があり楽しめます。
江戸中期には豪商や文化人など風流人が集い文芸活動も盛んで、島原俳壇が形成されたといわれています。
幕末には西郷隆盛、久坂玄瑞、と名だたる勤王志士や新選組が利用していた場所でもあります。
関連した書物や当時の刀傷も残されており幕末好きには必見です。
花街散策では志士たちの面影をしのばせる石碑も見かけ、ここを闊歩していた姿が目に浮かびます。

花街散策でのガイドさんのお話が面白可笑しく、聞くのと聞かないとでは、感動が違います。
天気に恵まれて楽しく、有意義な一日が過ごせました。

島原大門


臥竜松の庭

台所配膳場

松の間

網代の間

角屋に入ります